講義、実習（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技法②③④、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援実習①）　　司会：小山

オンライン（ZOOM）　　7月23日（日）9:00～16:00　　担当者：小山、水戸　コア：沖田、山田那

支援ST：坊岡、三上紀、西、谷本、後河内、北川、村松

支援ST（見学）：安宅、木村玲

目的：意思疎通支援の基礎技術を学び、これに留意しながら失語症者と１対１での会話ができる

事前準備				内容
				●参加コアST、支援STを確認　●当日のスケジュール、役割分担表を提案 ●内容確認　●模擬失語症者と受講生の組み合わせを調整
1週間前	Zoomの招待			実習資料(課題１)、チェックシートはコア、支援STのみ配布 受講生準備物：白紙、マジック

当日		時間	担当者	内容
AM	集合	8:15	コアスタッフ・支援ST全員	コア・支援STに当日のスケジュール・目的について説明 模擬失語症者（コア・支援ST）と受講者の組み合わせ調整・確認
	受付開始	8:30		出欠確認：沖田、水戸 研修後アンケートの確認（番号振り分け）
	スケジュール確認、講師紹介	9:00～９:05	小山	
	講義 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援技法②	9:05～10:05	矢守	
	休憩10分			
	講義 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援技法③	10:10～11:10	矢守	
	休憩10分			
	講義 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援技法④	11:15～12:15	矢守	
		12:15～12:20	小山	公開講座終了、事務連絡
	昼休憩40分			
PM	**実習** ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ支援実習① 課題１	13:00～13:20	水戸、小山	グループに分かれての実習方法についての説明：小山 前半の実習内容の提示注意点(実施すべきpoint）の説明：小山 出だしのデモ（小山、水戸）
		13:20～13:30	受講生 水戸	受講生考える時間（サロン案内を画面に映しておく） 13：30　ブレイクアウトルームへの振り分け:水戸
		13:30～14:05	各担当ST	受講生1名に10分を目安とし、時間が来れば交代、もしくは終了のアナウンス。 終了後、担当STとの振り返り15分程度（チェックシート使用）
		14:05～14:20	矢守	グループ発表と矢守先生からの講評（前半の感想） →グループ発表はランダムに3つ（小山が指名）
	休憩10分			

ブレイクアウトルームでの会話方法、チェックシートに書いているポイントを受講生に伝えます。

サロン案内の画面を映しておきます。(昼休みにも映しておきます）

STのみ持っているチェックシートで、実習を行っての感想を伺います。

	課題２	14:30～14:40		後半の実習内容の提示、注意点(実施すべきpoint）の説明：小山 ブレイクアウトルームへの振り分け:水戸
		14:40～15:25	各担当ST	受講生1名に10分を目安とし、時間が来れば交代、もしくは終了のアナウンス。 受講生とSTの振り返り（チェックシート使用） →フィードバックは実習①②を通してでも良い
		15:25～15:45	矢守	グループ発表と矢守先生からの講評（後半の感想、今後気を付けるべき点） →グループ発表はランダムに3つ（小山が指名）
	まとめ、連絡事項	15:45～16:00	コア、水戸	コアメンバー紹介、次回の案内：水戸
終了後	反省会	16:00～16:30	コア、支援	

フィードバックに時間を取っているので、受講生同士、STと自由に話して下さっても結構です。

課題１　内容：市内で開催されるサロンの案内文を伝える。参加の意向・移動手段について確認する。
目標：会話の基本姿勢、理解面を補う会話技術を実践し、可能であれば表出を補う会話技術を使用する。
方法：ブレイクアウトルーム35分（模擬失語症者ST　1名+受講者2～3名）⇒ロールプレイ1人10分で交代+担当STとの振り返り15分
情報を伝える上で難しかった点を発表してもらう。その後、矢守先生に講評をいただく

課題２　内容：夏の思い出を聞き出す
目標：表出面を補う会話技術を実践し、話の内容を確認する会話技術を使用する
方法：ブレイクアウトルーム45分（模擬失語症者ST　1名+受講者2～3名）⇒ロールプレイ1人10分で交代+担当STとの振り返り25分
情報を聞き出す、確認する上で難しかった点を発表してもらう。その後、矢守先生に講評をいただく

模擬失語症者(支援ST)の設定（事前に各自でイメージを確認しておく）
人物：年齢設定は自由だが、外観と大きな差がないようにする。性別は変えない。
失語症のレベル：軽度～中等度
理解：日常会話の理解は概ね可能だが、文字やジェスチャーなどがあると理解しやすい。複雑な内容は確認が必要。
表出：2～３語文での表出が可能であるが、目標語の喚語困難により、キーワードの表出が難しい
移動手段：麻痺の程度と住所、援助者の有無を設定し、サロン会場までの移動手段を設定しておく（任意）